

平成25年度 第1回 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成25年5月～6月)のポイント

(1) 来遊量：

シラスは平年を下回る。

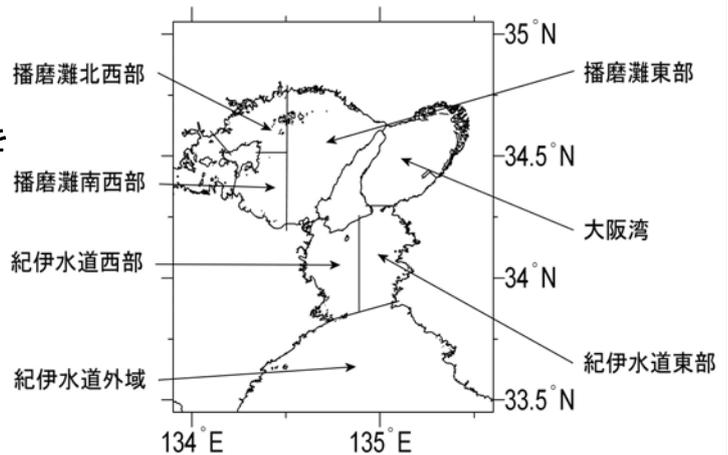
(2) 漁場：

紀伊水道東部のシラスは不漁であった前年、
平年を下回る。

紀伊水道西部のシラスは不漁であった前年を
上回るが、平年を下回る。

大阪湾、播磨灘東部及び播磨灘南西部の
シラスは不漁であった前年並み。

播磨灘北西部のシラスは好漁であった前年、
平年を下回る。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 新村、中津

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

(予報の詳細についてのお問い合わせ先)

独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 業務推進部

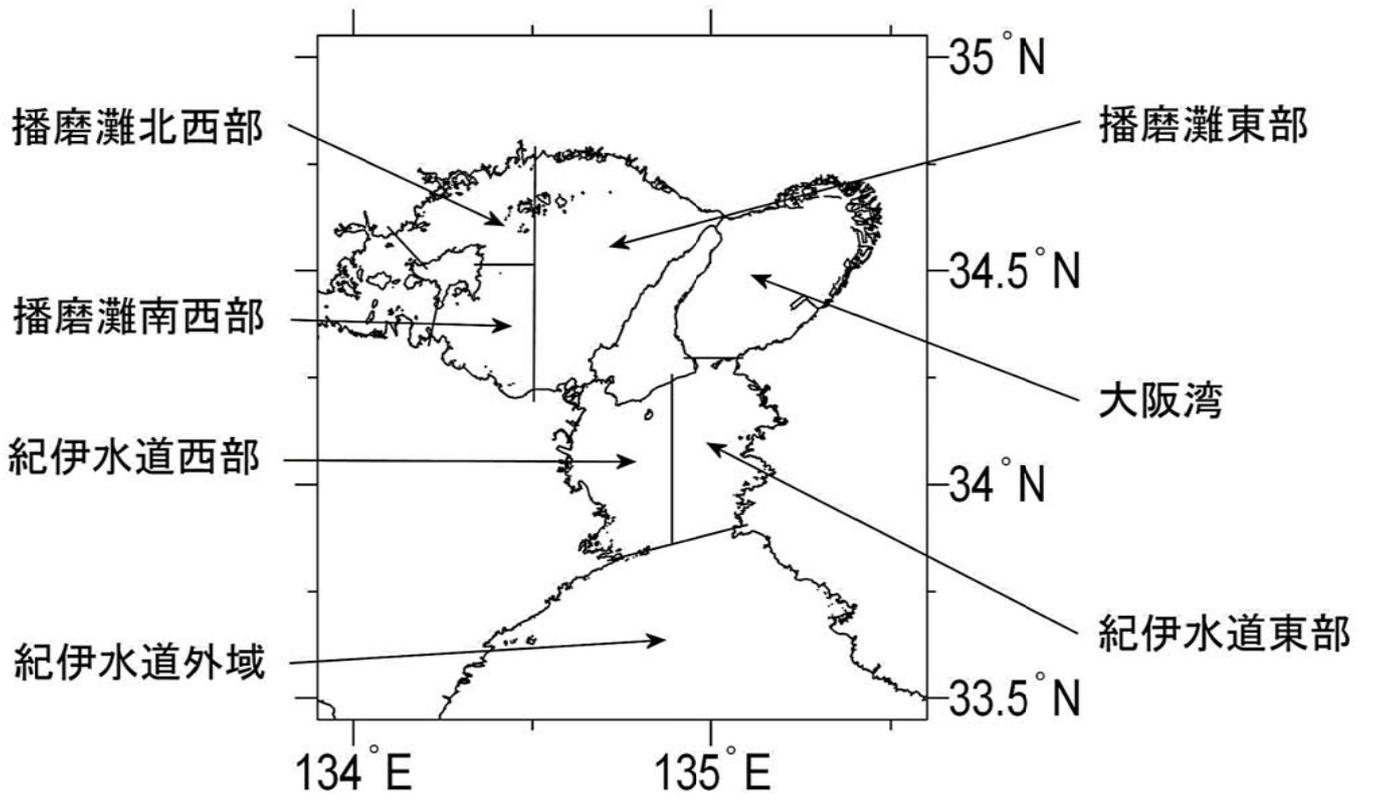
担当：吉田、北村

電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://feis.fra.affrc.go.jp/>



平成25年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し（2013年5月～6月）

シラス（本年春季発生群）

紀伊水道東部では不漁であった2012年、平年を下回る。

紀伊水道西部では不漁であった2012年を上回るが、平年を下回る。

大阪湾、播磨灘東部及び播磨灘南西部では不漁であった2012年並み。

播磨灘北西部では好漁であった2012年、平年を下回る。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の指標とし（図1～3）、特に断りがない場合、1985～2011年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過（2012年1月～2013年4月）及び今後の見通しについての説明

(1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では2012年の漁獲量は前年の158%、平年の86%であった。2012年5～6月の漁獲量は前年の117%、平年の41%であった。

紀伊水道西部（徳島県側）では2012年の漁獲量は前年の127%、平年の60%であった。2012年5～6月の漁獲量は前年の281%、平年の12%であった。2013年の春漁は4月20日現在、本格的な出漁には至っていない。

紀伊水道北部（兵庫県側）では2012年の漁獲量は前年の248%、平年の198%であった。2012年5～6月の漁獲量は前年の420%、平年の33%であった。

大阪湾（大阪府）では2012年の漁獲量は前年の206%、平年の153%であった。2012年5～6月の漁獲量は前年の2335%、平年の41%であった。

大阪湾（兵庫県）では2012年の漁獲量は前年の140%、平年の107%であった。2012年5～6月の漁獲量は前年の14061%、平年の28%であった。

播磨灘東部（兵庫県側）では2012年の漁獲量は前年の218%、平年の145%であった。2012年5～6月は平年の19%（前年漁獲なし）であった。

播磨灘南西部（香川県側）では2012年の漁獲量は前年の254%、平年の114%であった。2012年5～6月の漁獲量は前年の81%、平年（1989～2011年の平均値）の11%であった。

播磨灘北西部（岡山県側）では2012年の漁獲量は前年の179%、平年（2000～2011年の平均値）の172%であった。2012年5～6月の漁獲量は前年の128%、平年の118%であった。

2013年の春漁は4月20日現在、紀伊水道以外の海域では始まっていない。

(2) 日向灘～紀伊水道での産卵量

中央水産研究所、瀬戸内海区水産研究所がとりまとめたカタクチイワシの産卵状況に関する報告によると、2013年1～3月には日向灘～紀伊水道外域で産卵が認められ、合計産卵量は12兆粒（前年比80%、前年比11%）であった。

和歌山県水産試験場と徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課が行った定線調査では、紀伊水道外域での卵密度は2月に0粒/m²（前年0.3粒/m²、平年35粒/m²）、3月に2粒/m²（前年比4%、平年比1%）であった。仔魚密度は2月に0.2個体/m²（前年比230%、平年比2%）、3月に1個体/m²（前年比7%、平年比4%）であった。紀伊水道での卵密度は2月に前年同様0粒/m²（平年0.02粒/m²）、3月に1粒/m²（前年比5%、平年比54%）であった。仔魚密度は2月に前年同様0個体/m²（平年0.1個体/m²）、3月に0個体/m²（前年2個体/m²、平年8個体/m²）であった。

(3) 今後の見通しの説明 (2013年5月～6月)

シラス (本年春季発生群)

4月22日現在、潮岬沖を黒潮小蛇行が通過中であり、黒潮流路は都井岬～室戸岬でやや離岸、潮岬でかなり離岸している。4月21日における海面水温衛星画像によると、紀伊水道沖合～土佐湾にかけて、黒潮系暖水の波及が見られる。各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と水産総合研究センター運用の海況予測システム FRA-ROMS 予測結果を併せて考慮すると、4月下旬までは黒潮小蛇行の通過に伴い、室戸岬～潮岬ではやや離岸するが、5月以降に接岸すると推測される。

紀伊水道の春季シラス漁は日向灘～紀伊水道外域での産卵量と来遊環境に主に依存する。4月20日現在、黒潮は離岸しており、紀伊水道東部の5月の漁期におけるシラスの来遊環境はあまり良くないと考えられる。また、日向灘～紀伊水道外域の1～3月の合計産卵量は2012年、平年を下回っているため、不漁であった2012年、平年を下回ると予測される。紀伊水道西部でも、シラスの来遊環境はあまり良くないと考えられる。春季のシラス漁獲量と関係が深いと考えられる豊後水道や紀伊水道周辺海域のカタクチイワシ親魚の漁獲量やカタクチイワシ卵仔魚量の状況から判断すると、紀伊水道西部では不漁であった2012年を上回るが、平年を下回ると予測される。

大阪湾及び播磨灘の春季シラス漁は日向灘～紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道及び紀伊水道外域でのシラス現存量、来遊環境に主に依存する。5月以降に潮岬で黒潮が接岸すると予測されているため、来遊環境は5月から好転すると考えられる。しかし、日向灘～紀伊水道外域の1～3月の合計産卵量は2012年、平年を下回った。紀伊水道でのシラス漁は低調であり、カタクチシラスの現存量も少ないと思われる。また豊後水道や紀伊水道周辺海域のカタクチイワシ親魚も少ないと考えられることから、大阪湾では不漁であった2012年並みと予測される。

播磨灘東部及び播磨灘南西部でも2011年、2012年とも来遊環境は概ね良かったものの、漁期当初の紀伊水道のシラス現存量が非常に少なかったため、シラス漁獲量は僅かであった。今漁期も同様の状況であることから不漁であった2012年並みと予測される。

播磨灘北西部では上記の理由から好漁であった2012年、平年を下回ると予測される。

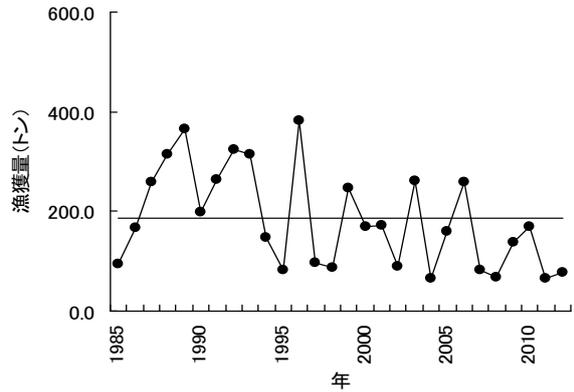
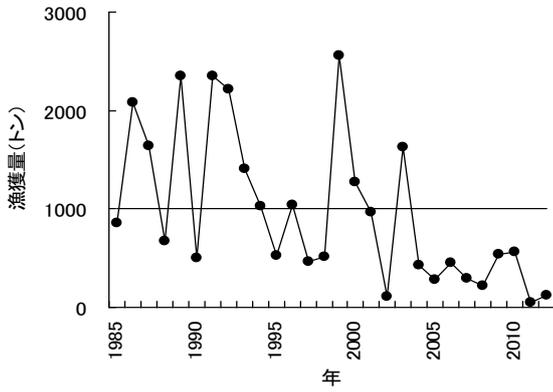


図1 紀伊水道西部（徳島県側：左図）及び紀伊水道東部（和歌山県側：右図）の標本漁協における5～6月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

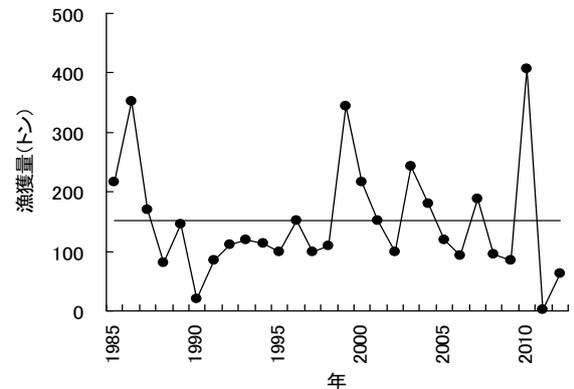
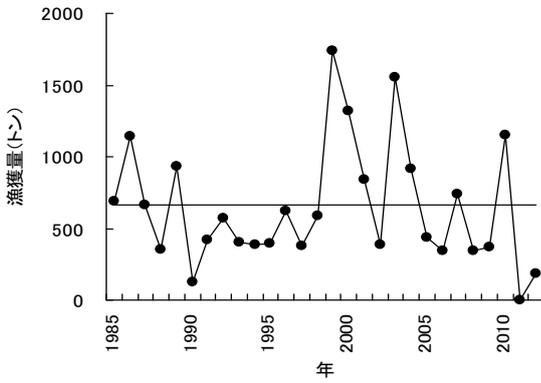


図2 大阪湾（兵庫県：左図、大阪府：右図）の標本漁協における5～6月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

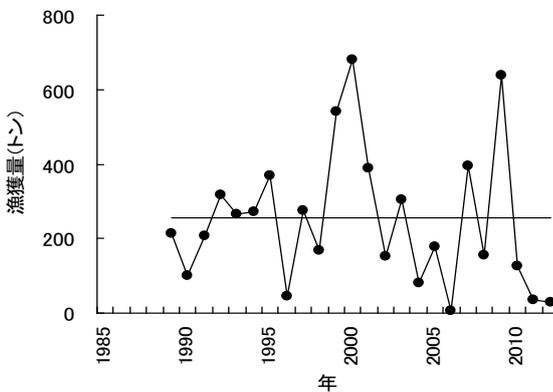
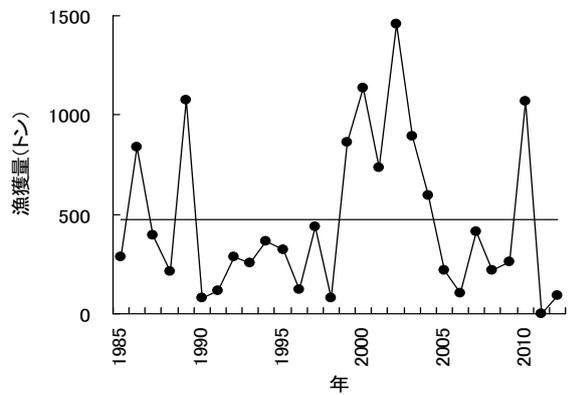
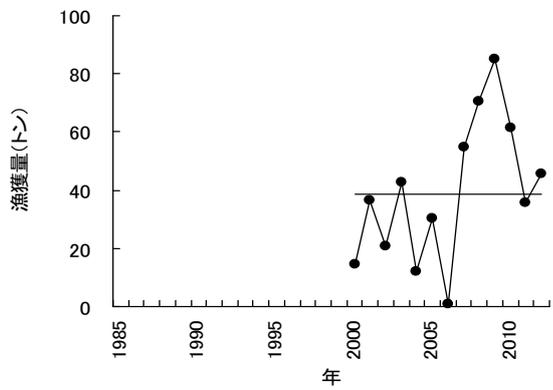


図3 播磨灘北西部（岡山県側：左上図）の標本船における5～6月のシラス漁獲量、播磨灘東部（兵庫県側：右上図）、及び播磨灘南西部（香川県側：左下図）の標本漁協における5～6月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

参 画 機 関

<p>和歌山県水産試験場</p> <p>地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター</p> <p>兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター</p> <p>岡山県農林水産総合センター水産研究所</p> <p>香川県水産試験場</p>	<p>徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課</p> <p>水産庁 増殖推進部 漁場資源課</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所</p>
--	--